



九州産業大学経営学部  
産業経営学科 事業開発コース

学生の感性を生かした斬新な商品開発、ユニークで挑戦的なイベントの企画運営、地域活性化を目指したまちづくり……。経営学の知識を生かして学生がチームを組んで、これらのプロジェクトを立ち上げて、自ら実践していくことで学んでいくプロジェクト型授業(PBL教育)が事業開発コースだ。ビジネス・企画・起業を実践的に学ぶ事業開発コースでも導入を進め、その一環として今年9月には日本の大学で初めてとなるレゴ®シリアスプレイ®の集中講義を開講する。

ブロックでは、作業レベルが平準化されており、誰でもつくられるのが魅力的です。レゴブロックを用いて、われわれの中でモヤモヤした気持ちやイメージなどをカタチにしていく中で考えが整理され、新しい発想やアイデアも生まれます。シリアスプレイは、いわば遊びと学びを融合させた問題解決プロセスでもあり、新しい学びの道場、といえるでしょう。

九州産業大学  
経営学部 産業経営学科 教授

間 理 氏

1973年1月19日生、静岡県浜松市出身。横浜国立大学経営学部国際経営学学科卒、2001年3月横浜国立大学大学院国際開発研究科(博士課程後期)単位取得満期退学。同年4月九州産業大学経営学部に着任。専攻分野は経営学。研究テーマは「個を活かす組織の研究」で、組織学習をベースに組織が円滑に機能する仕組みを研究する。組織のコミュニケーション論にも造詣が深く、レゴ®シリアスプレイ®トレーニング修了認定ファシリテーターでもある。

倒

産前だった玩具メーカーが子ども向けプラスチック製ブロックをビジネスの経営者・ビジネスリーダーを魅了している。デンマークに本社を置くレゴ社は世界で約7500万人の顧客から支持されて、2014年上期に「ハービー」人形で有名な米マテルを抜いて、世界最大の玩具メーカーになった。そのなかで、レゴの持つ可能性を感じさせる魅力の一つとして現れてきたのが、いま話題の「レゴ®シリアスプレイ®」だ。レゴ®シリアスプレイ®の公認ファシリテーターである間理氏に人気の秘密や魅力を聞いた。



kikima osamu

なぜ、レゴ®シリアスプレイ®を活用したワークショップは、世界の経営者をはじめビジネスリーダーを魅了するのか

いま話題のレゴ®シリアスプレイ®とは何か？

レゴ®シリアスプレイ®とは、レゴブロックを用いて参加者の頭の中にあるイメージを「見える化」することで共通点を見出されて、個性や考え方の違いも認識する手法です。レゴブロックの「レゴ」とは、デンマークの玩具メーカーであるレゴ社を指します。デンマーク語の「レゴット(よく遊べ)」という言葉が、社名の由来だそうです。レゴ社は最初、積み木を手掛けた後、プラスチック製のブロックの製造を始めました。

肝心の玩具業界がテレビゲームの登場で大きく変わる中、レゴ社も生き残りをかけて、いろいろな挑戦しましたが、ここごとく失敗



福岡女子大学「社会学部直し大学院プログラム」での授業風景

今秋、日本初のレゴ®授業が九産大で開講

現状、レゴ®シリアスプレイ®は新入社員や若手社員向けの研修で用いられることが多いですね。ある程度の経験や知識を身につけた若手社員は日々の業務で忙殺されがちなので、レゴ®シリアスプレイ®で自らの振り返りや自分自身の「棚卸し」ができます。さらに今後のキャリア構築について考える良い機会になっています。

また、職場内でのコミュニケーション不足や他人との考え方や意識の違いで人間関係がギスギスしてしまう場合でも、レゴ®シリアスプレイ®で互いの内面に眠る意識を明らかにして、互いの個性や違いを認め合う中で、自社の企業文化も認識・共有できます。

私自身は大学教員として、学生がチームを組んでプロジェクトを実践的に学ぶプロジェクトベーストレーニングを担当です。場合などが、チームの方向性を決める場合などにレゴ®シリアスプレイ®を使っています。さらに本学では今年9月、日本初のレゴ®シリアスプレイ®の授業として「経営学特別講義2C・自己変革の理論と実践」を集中講義します。組織変革を目指すU理論の「ひたすら観察」(プレゼンシング)して「内省して内なる知(ノウイング)に任せて、素早く即興的に行動に移す」(クリエイトイング)ための促進ツールとして、レゴ®シリアスプレイ®を活用します。

また、福岡女子大学の社会人学び直し講座でも積極的に取り入れ、リーダーシップや創造性開発に貢献しています。

レゴ®シリアスプレイ®とはどのように進めのか

レゴ®シリアスプレイ®では、まず参加者にブロックで表現してほしい「お題」が投げかけられます。その後、ファシリテーターが出した課題について、各参加者が手を動かして考えながらレゴブロックでつくっていきます。そして、完成した作品について本人が自ら説明します。人間はどのような状況下でも心理的に落ち着く配置や構成をしていきます。それらの内面も踏まえてファシリテーターが作品の解釈や説明をしていくことで本人に気づきを促し、さらにいろいろな問い掛けを通じて本人の中に眠っている創造性が刺激されていきます。

レゴ®シリアスプレイ®への科学的な研究もスタート

現在、レゴ®シリアスプレイ®による効果測定についても研究中です。レゴ®シリアスプレイ®の授課前・授課後でのレゴブロック作品を比較していく試みです。ブロックの色合いの変化や平面構造の立体化、表現空間の拡大などのパターンがあることがわかっており、レゴ®シリアスプレイ®で個別効果も検証可能だと考えます。

また、本学が導入した脳内の血流測定装置で調べた結果、レゴブロックで考えた場合と言葉で考えた場合では、レゴブロックで考えた方が血流が大幅に多く、さらに全脳的に回っていました。言葉で考えた場合は、使う脳の部位が決まっているのに対して、レゴブロックを用いた場合は、脳のいろいろな部位を使うからです。

三次元のレゴブロックが未来のビジネスを導く

歴史的にみて、人間は道具を通じて、自らの世界を広げてきました。道具の発展で世界認識を広げてきたともいえます。その人間の思考ツールは最初、絵や音でした。その後、文字が発明されて情報量は飛躍的に拡大しました。しかし、文字情報自体に限界があり、二次元情報なのでどうしても表現も限られています。

その点、三次元情報であるレゴブロックは色や形状、配置など従来と違う情報で世界を新たに認識・理解でき、世界観や考え方を大きく広げる可能性があります。たしかにビジネス理論は文字中心



レゴ®シリアスプレイ®ではレゴブロックを教材とする

目されています。その背景として、アメリカの企業が革新的なモノを次々と生み出していくのに対して、日本の企業が新たなモノを創出できない現状がありました。このような状況は技術力の差ではなく、発想やアイデアの合わせ方など従業員の中に眠る創造性を引き出せないところにありました。

レゴ®シリアスプレイ®では自分の思考や理解に加え、思い込みも認識できます。これらの点も踏まえ、インベティブで創造的な力を養うことができる点でも注目されています。

なぜ、レゴ®シリアスプレイ®の学びが魅力的なのか

レゴ®シリアスプレイ®の効果としては、大きく二つあります。一つは言葉で表せなかった表現をレゴブロックができる点です。もう一つは手を動かして考えながらつくること、いろいろな発想や気づきも生まれるという効果があります。

レゴは組み合わせやすいので、表現の幅が狭い粘土や、表現技術が先行しがちな絵画と違ってレゴですが、新たなビジネスへの発想や理解を図る上でレゴブロックは人間の可能性をさらに広げていくのではないのでしょうか。

だからこそ、経営者をはじめ、ビジネスリーダーには、ぜひレゴ®シリアスプレイ®を体験してほしいと思います。自らの考え方を柔軟にするのは人間にとって難しいことです。経営トップとして自社の将来を考える時、もしも自分の思い込みで囚われていたら、致命傷になる可能性もあります。だからこそ、自分自身のイメージや思い、考えを可視化できるレゴ®シリアスプレイ®を積極的に取り入れていくべきではないでしょうか。

本来、レゴ®シリアスプレイ®は、経営トップのための経営戦略ツールとして開発されました。経営者やビジネスリーダーにとってレゴ®シリアスプレイ®は、大変有効な手法です。私自身もいままでもなかったような全く新しいレゴ®シリアスプレイ®の教育プログラムを研究・開発や実践に全力で取り組んでいます。

**7/9 sat BIZアカデミックセミナー**

『レゴ®シリアスプレイ®を活用した自己とビジネスの未来を考えるワークショップ』

九州産業大学経営学部教授  
LSPトレーニング修了認定ファシリテーター 間理 氏

7月9日(土) 12:30開場  
ワークショップ 13:00-18:00

懇親会 別会場にて18:30~希望者のみ(別会場4000円~)

【会場】BIZ Seminar Room (福岡市中央区渡辺通 3-6-15NOF天神南ビル3F)

【会費】ワークショップ5000円 懇親会4000円(希望者のみ) 定員30名

【申込】BIZ FUKUOKA WEB PRESSの入力フォームまたは FAX申込書をダウンロードしてFAXにてお申し込みください